

品川稲門会会報 14

<http://www.shinagawa-waseda.net>

会長ごあいさつ

漆 邦臣先生のご冥福を祈って

品川稲門会会長 塚田成四郎 (S50法)

品川稲門会副会長の漆邦臣先生が平成29年2月2日、胆管ガンのためお亡くなりになりました。享年83歳でした。

漆邦臣先生は、昭和33年教育学部を卒業後、昭和61年に品川女子学院校長、平成7年に理事長となり、教育一途の道を歩んでこられました。また、早稲田大学校友会では商議員・賛助代議員としてご尽力されました。

平成2年に、漆邦臣先生や故櫻井輝隆さんを中心に有志が集まり、品川稲門会設立の準備を重ねました。そして10月26日、品川稲門会設立総会がきゅりあんで開催されました。以来、漆邦臣先生は副会長として品川稲門会の先頭に立って活躍されました。そのご功績は計り知れません。特に、正月恒例の箱根駅伝応援会は漆邦臣先生のご厚意によるもので、コースに品川女子学院が面していることもあり、応援会の会場としてのカフェテリアを提供していただきました。

今年の駅伝応援会でも車椅子ながら会場におすがたを見せていただきましたが、残念ながらそれが私たちとの最期となりました。

実に気さくなお人柄で多くの会員から慕われていて、

大変お世話になりました。会員一同、感謝とともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌。

品川稲門会の会員数は現在のところ、250名ほどですが、年々、総会などの行事の参加者は減少傾向が続いています。行事に参加する魅力が薄れているのかと危惧しています。

そこで、若手の会などを実施して、会の行事の担い手になる方を広く募っています。特に自営業の方は時間の自由があると思われまますので、積極的なご参加をお願いいたします。また、定年退職されたばかりの方も積極的に第二の活躍の場として品川稲門会を活用して頂けると嬉しい限りです。

品川稲門会の年間行事は、1月3日の品川女子学院のカフェテリアをお借りしての箱根駅伝応援会、1月の七福神めぐり、2月初旬の新年会、春のウォーキングとグルメの会、春のゴルフ会、5月の早慶明大学対抗ジャズフェスティバル、8月の若手の集い、9月の総会、秋のウォーキングとグルメの会、秋のゴルフ会などがあります。ゴルフ会は昨年秋、長崎のパサージュ琴海まで遠征しました。この他に、3月の東京都23区支部大会に有志が参加しています。また、10月の大隈庭園での稲門祭にも参加し、模擬店を出店しています。

他の区の稲門会の行事に参加してみると、相撲部屋の稽古見学、野球やラグビー、レガッタなどの早稲田スポーツ応援会、カラオケ部会などがあります。品川稲門会でも新しい企画をと考えていますが、こんなのはというご提案がありましたらぜひ、事務局までご連絡ください。



品川稲門会会報 14号 2017年8月1日発行

発行 = 品川稲門会 発行人 = 塚田成四郎

事務局 = 〒140-0004 品川区南品川4-5-4-222

渡辺寿士 (TEL.03-3471-7524)

印刷所 = (有)大成閣印刷

幹事長ごあいさつ

昨年の総会以降の1年を振り返ります。

9月3日、通常総会がTKPガーデンシティ品川にて開催されました。総会に先立ち柘植信行先生による講演が行われ、大変興味深い話に皆さん耳を傾けました。総会では役員改選が行われ、新しい理事に昭和63年政経卒の今井将雄さんが就任されました。早速今年度の稲門祭実行委員を務めるなど今後の活躍が楽しみです。

9月17日には大崎にて第3回若手校友の集いが開催され、大いに盛り上がりました。続く秋の行事としてゴルフ会は10月18～20日、長崎観光を交えてパサージュ琴海にて開催、品川稲門会初の九州遠征となりました。同月23日の稲門祭では、例年通り大隈庭園内でテント出店し、焼きそばなどを販売しました。11月7日には秋のウォーキング&グルメの会が行われ、江の島を巡りました。

年が明けた正月3日、恒例の箱根駅伝応援会が品川女子学院カフェテラスにて開催され65名が参加、品川稲門会の行事の中でも最も賑やかな集いとなりました。

1月8日は雑司ヶ谷七福神めぐり、そして2月4日にはTKPガーデンシティ品川にて新年会が開催されました。新年会では初参加者が多数ありました。また平成卒が参加者の約3分の1を占めるという、今までにない光

景が印象的でした。

春になり4月13日はゴルフ会がグレンオックスCCにて行われ、5月14日、母の日には第17回おおもりのジャズが、翌週の21日は自然教育園を巡るウォーキング&グルメの会が開催されました。今年度の通常総会は9月9日です。皆様のご参加をお待ちしております。

思い起こせば、残念なことに今年の箱根応援会は漆邦臣副会長とお話しする最後の機会となってしまいました。ご存知のように漆先生は品川稲門会の創設メンバーであり、こよなく稲門会を愛され会の発展に偉大な貢献をされてきました。

私自身、役員になりたてで右も左もわからぬ時の会報第2号の編集委員(漆先生が第2号編集長)としてご指導いただいたのを皮切りに、公私ともども大変お世話になりました。また行事や役員会への出席率の高さは他の追従を許さず、長らく会を物心両面で支えてくださり、運営に困ったときには本当に頼りになる存在でした。

10年以上もほぼ毎月のようにお会いしてきただけに、今でも「こんばんは」と和やかに微笑む先生がそこにおられる気がします。2月2日、ご永眠。心よりご冥福をお祈りします。
(渡辺寿士 平2 法)

第26回品川稲門会総会

第26回品川稲門会総会は、平成28年9月3日にTKPガーデンシティ品川「アネモネの間」で開催され、来賓を含め35名が参加しました。

総会に先立っての講演会は、塚田会長からの品川についてもっと理解を深めようという提案から、品川歴史館の前副館長の柘植信行先生に「武蔵国府と品川一浜下りと品川道一」というテーマでお話いただきました。品川道は、今の府中に武蔵国府がおかれたころ、国府から東海道に通じる脇街道でした。その名称は、大國魂神社(六社宮)の大祭に用いる清めの海水を、品川の海から運んだことによると言われています。この道をベースに新

しく造った甲州街道のバイパスが「品川通り」です。

総会は神野吉弘幹事長代行の司会のもと、塚田成四郎会長の開会の辞により始まり、ご来賓の早稲田大学地域担当部長、根本進様より大学の現況についてご報告をいただきました。

続いて議事に入り、小林義行副会長から事業報告と事業計画が、高橋慎司会計幹事より会計報告が、長谷山純監査より監査報告がなされました。今年度は改選期であり役員改選案が提出され、満場一致で承認され、新体制が発足しました。

懇親会は勝山宏則副幹事長の司会により進行し、相談



役の濱野健品川区長による乾杯のご発声により開会。大田稲門会会長の金森捷三郎様のご挨拶をいただきました。

続いて各幹事のお知らせがあり、長久保敏理事より長崎ゴルフ旅行について、小林義行副会長より秋のウォーキングについて、木伏源太副幹事長より若手校友の集いについて報告がなされました。

暫しの歓談のなか、新入会員とゲスト参加者による自己紹介がされ交流が深まりました。

最後に木伏副幹事長のリーダーにより校歌斉唱、小林副会長の閉会の辞によりお開きになりました。

(勝山宏則 H2 理工)

■品川稲門会役員 (2016年度・2017年度)

会 長 塚田成四郎
副会長 小林義行 中沢郁子 保科義和 漆邦臣(故人)
幹事長 渡辺寿士 幹事長代行 神野吉弘
副幹事長 勝山宏則 中尾公一 木伏源太
会 計 松井博之(新任)
監 査 長谷山純 高橋慎司(新任)
理 事 有吉輝恒 飯島節子 鈴木治樹 鈴木真澄
築館武雄 長久保敏 野末浩司
今井將雄(新任) 牧絹子(新任)
相談役 小林忠雍 濱野健

品川稲門会新年会



平成29年2月4日(土)、SHINAGAWA GOOS内にあるTKPガーデンシティ品川サルビアの間にて、品川稲門会新年会が開催されました。

五反田ゆうぼうとの閉館から、こちらの会場へ移して2年目となり、ご来場の皆さまも受付も手馴れた様子でスムーズな開会となりました。

司会の神野吉弘幹事長代行の開会宣言に始まり、塚田成四郎会長から新年のご挨拶、そして金森捷三郎大田稲門会会長の来賓のご挨拶を賜り、厳かななかにも和やかに進み、鈴木真澄理事のご発声にて高らかな新年の乾杯となりました。

食事をとりながらの賑やかな歓談のあと、会は各種ご案内とアトラクションへと進みます。司会を小生中尾が譲り受け、まずは松井博之会計からの早慶明大学対抗ジャズフェスティバルのご案内がなされました。続いては、新入会員のご紹介。毎春1月3日に品川女子学院をお借

りして行われる駅伝観戦会でのPR効果あったか、今回は4名の新入会員の皆さまにご参加いただき、自己紹介そして今年の抱負などを語って頂きました。

本年のアトラクションはビンゴ大会。鈴木利美会員の軽やかな進行もと、役員や有志の方が持ち寄った豪華景品をめぐって一喜一憂。ハイテクビンゴゲーム機の操作に多少苦戦しつつもお隣の会場から苦情がくるのでは？と思われる盛り上がりを見せ、見事ビンゴの方はホクホクと、惜しくも届かなかった方は身軽にお帰り頂くこととなりました。

その興奮も冷め止まぬまま、勝山宏則副幹事長から東京都23区支部大会のご案内がなされ、恒例の木伏源太副幹事長の応援指揮のもと校歌斉唱とエールへと進み、小林義行副会長の閉会の辞をもって、終始賑やかで和やかな新年会を終えることになりました。ご参加の皆さまにはありがとうございました。(中尾公一 H5 理工)

東京23区支部大会

平成28年度の東京23区支部大会が、平成29年3月5日(日曜日)に開催されました。品川稲門会からは、新人を含めて16名がエントリーしました。

まず第一部は、大隈大講堂にて早稲田大学ラグビー蹴球部監督の山下大悟氏の講演がありました。山下監督は清宮監督のもと平成14年度に主将として、ラグビー日本一を達成して「荒ぶる」を実現しました。講演は、日経新聞運動部の谷口誠氏との対談形式で、早稲田ラグビーの現状と今後の展望について夢のあるお話を伺うことができました。昨今は、帝京ラグビーの巨漢に押され続けていますが、何とか往年の早稲田のスピードラグビーで日本一を実現して欲しいものです。

第二部の懇親会は、会場をリーガロイヤルホテルに移して、堀内英男23区支部長(足立稲門会)の挨拶から始まりました。昨年は進行運営を品川稲門会が担当し、私が23区支部長として挨拶しましたが、今年は参加者の一人として大変気軽に過ごせました。

来賓代表として島田陽一副総長が、台湾の大学野球に出張した鎌田薫総長に代わり、挨拶されました。島田副総長はラグビー部の部長でもあり、ラグビー部について



述べられ、大学の現状報告と、大学への寄付を引き続きお願いしたい旨のお話がありました。

個人的に、島田副総長とは大学時代から面識がありました。私たちは別々のクラスにいたのですが、フランス語を第一外国語としていた関係から、同じコンパによく参加していました。40年以上を経過して副総長としてご活躍の彼と再会できて感無量でした。

10月15日は、稲門祭があります。東京23区支部の品川稲門会は、大隈庭園で焼きそばや飲料などの模擬店の出店をいたしますので、ぜひ応援や遊びにいらしてください。(塚田成四郎 S50 法)

稲門祭&ホームカミングデー

2016年10月23日、校友会最大のイベント稲門祭が開催されました。今回も天候に恵まれて、ホームカミングデーに出席する約5000名を含め全国から約15000人の校友が集まりました。キャンパスの至る所に、地域稲門会や年次稲門会などの諸団体が様々な模擬店を出店し、大賑わいでした。音楽祭やパレード、シンポジウムやトークイベント等々、内容も盛りだくさん。今回の稲門祭のテーマは、Welcome to Waseda Wonderland ですが、まさしくワンダーランドです。

東京都23区支部は毎年大隈庭園に模擬店を出店しますが、今回は10店が出店しました。食べ物や飲み物を販売



する店はもちろん、似顔絵や俳句など、扱うものはさまざまです。我々品川稲門会は、庭園の一角にテントを張って、焼きそば、飲料、ソフトクリーム販売の模擬店を出店しました。お店のオペレーションは、品川稲門会御用達ともいえる専門業者の(株)マコトさんが行います。焼きそばはプロが調理するから、味は抜群！お客さんの評判も上々。我々の仕事は主にお客さんの呼び込みです。初めのうちは庭園の中央で行われる音楽やパフォーマンスを楽しみながらですが、ホームカミングデーの式典が終了すると人がどっと来ますのでちょっと真剣。完売を目指して大きな声を張り上げて一生懸命売り込みをしました。

お天気に恵まれたこともあってほぼ売り切ることが出来ました。収益は校友会を通して大学に寄付されて奨学金の一助となりました。

2017年の稲門祭は、10月15日(日)に開催されます。卒業年に関係なく、どなたでも参加できますので、お誘いあわせください。品川稲門会は今年も模擬店を出す予定です。ぜひ大隈庭園にお立ち寄りください。

(今井将雄 S63 政経)

雑司ヶ谷七福神めぐり

この種のイベントへの参加は平成27年秋のウォーキング、平成28年1月の羽田七福稲荷めぐりに続き、3回目になります。「ウォーキング」と「神社寺院めぐり」を趣味にもつ私にとっては、毎回楽しみにしている企画です。

当日は有楽町線護国寺駅改札口に集合。そこで最初に渡されたものは、七福神めぐり用の地図と各神社参拝の



しおりです。

幹事の長谷山さんに「このコースは以前からご存じでしたか」と伺ったところ、奥様と昨年12月に下見をし、昼食会のお店も試食して決めたとのことでした。本当にお世話様でした。雑司ヶ谷七福神は、雑司ヶ谷のまちおこしのために、2011年初詣からスタートしたそうです。

このコースで印象に残ったのは、途中で雑司ヶ谷霊園があり七福神の他に歴史上有名な方々の墓地をお参りできたこと、布袋様がビルの中にあつたことの驚きでした。

ひと汗かいた後の昼食会で、参加者の懇親は深まります。そこでは初参加者は歓迎されます。

お店で解散しましたが、大学時代以来の何十年ぶりに都電荒川線に乗って帰りました。

雑司ヶ谷のまちづくり活動は、日本ユネスコ協会認定の「未来遺産」に登録されているそうです。有意義な経験がプラスされた気分でした。（長岡美如 S57 政経）

ウォーキング&グルメの会

■品川稲門会秋のウォーキング

鎌倉に転居された田中邦彦さんのお誘いで、江の島に出かけました。「江島神社」は、海の女神を祭っています。

小春日和の11月7日(月)、参加者10名が藤沢駅からバスで江の島に到着。弁財天仲見世通は朝から観光客で賑わっていました。江の島頂上までは長い石段ですが、屋外エレベーター「江の島エスカー」があり、楽に登れます。エスカーの乗り継ぎ所に各社殿があり、辺津宮には日本三大弁財天の一つ妙音弁財天が奉安されています。

湘南のシンボル、展望灯台「江の島シーキャンドル」は、南国ムード溢れる庭園「サムエルコッキング苑」の中にあり江の島の頂上にそびえています。展望台から望む湘南の海岸線は最高の景色で、遠くには富士山の雄姿を拝むことができました。

お楽しみのグルメは、しらす料理の名店「魚花」へ。かき揚げなどの御膳で至福の一時を過ごしました。

■春のウォーキング&グルメの会

五月晴れの5月21日(日)朝、目黒駅から国立科学博物館付属自然教育園へ徒歩10分で到着。園内に一歩踏み入ると都会の喧騒と真夏日が嘘のような心地よい温度と空気の香り、木々の間から射し込む太陽の光のお出迎えでした。

江戸時代は高松藩の下屋敷だったそうで園内には館跡、土塁、巨木の物語の松など当時の面影が色濃く残ってい



ました。また池には小魚に混じってオタマジャクシが群れを成して泳いでおり初夏の息吹が感じられました。豊かな自然がここに残っています。

各自思い思いに散策し、森林浴を楽しみリフレッシュした後、プラチナ通りにあるアニバーサリーガーデンで昼食。地ビールで乾杯し、オーガニックの食材を使った料理をいただきました。青空のもと13,000歩のウォーキング&グルメの会でした。（小林義行 S42 理工）



ゴルフ懇親会

■第57回品川稲門会ゴルフ懇親会（長崎ツアー）

秋のゴルフ懇親会は、玉木光生さんのお世話があり、2泊3日のゴルフツアーと長崎観光の特別企画を行いました。ゴルフ場は、2015年日本女子オープン開催のパサージュ琴海アイランドGCです。

2016年10月18日早朝、予定通り羽田に全員集合し、長崎に出発。長崎空港から高速フェリーに乗って約30分、リゾートホテル・パサージュ琴海へ到着しました。

早速、隣接しているゴルフ場で練習ラウンドです。風呂でゆっくり体調を整えた後の夕食は、料理長推薦の日本料理と酒を堪能。そして、夜はカラオケルームで、歌の大合戦となりました。

2日目は、見所満載の長崎市内観光で大いに見聞を広めました。昼食に長崎独特の卓袱料理を味わい、夕食には長崎新中華街の料理を楽しみました。

最終日は、前日の観光疲れをものとせず、皆さん体力と気力が充実したハッスルプレーを展開しました。

その結果は、優勝＝中山さん、準優勝＝玉木さん、第3位＝住友さん、ブービー＝米川さん。レストランで、遅い昼食と表彰パーティをし、帰路に就きました。

素晴らしい秋晴れに恵まれ、楽しいゴルフと長崎市内



観光を堪能することができました。

■第58回品川稲門会ゴルフ懇親会

春のゴルフ懇親会は、成田空港近くのグレンオークスCCでさくらが咲き誇る4月13日(水)に開催しました。今回は参加者が8名と少人数ではありましたが、豊川さんが6年ぶりに参加されました。

お天気に恵まれ、日頃の品行の良さは証明されたものの、バットに苦しむ場面が多々見受けられ、スコアは思い通りにはいかなかったようです。

結果は、優勝＝長久保さん、準優勝＝木村さん、第3位＝納谷さん、ラッキー7＝米川さんでした。

懇親会では、皆さんの近況報告やゴルフ談議に花を咲かせました。
(長久保 敏 S45 理工)



第17回 早慶明ビッグバンド ジャズフェスティバル

毎年、「母の日」に開催される恒例イベント。今年は、5月14日(日)に約1,000名のお客様をお迎えし、大森ベルポートアトリウムにて開催されました。

地域密着イベントとして、すっかり定着した感のある本フェスティバルは、今回から「おおもりジャズ」という新たな愛称での開催となりました。お客様の拍手で優勝が決まるというユニークな大会。

慶應義塾大学ライト・ミュージック・ソサエティ、早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラ、明治大学ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラの順番で、華麗なビッグバンドジャズを披露して満員の会場の盛り上がりは最高潮に。果たして、優勝は？

極めて接戦でしたが、我が「High Society Orchestra」が会場一番の拍手を浴び、見事2年ぶりの優勝を果たしました。横山大森駅長、濱野品川区長、松原大田区長から各バンドに、賞金と花束が贈られ更に拍手喝采。

第二部は、本大会ならではの3大学からのピックアップメンバーと、地元「品川女子学院吹奏楽部」や、ゲスト

プレイヤーの「魂のトランペッター」類家心平さんとの合同演奏お楽しみタイム。

司会の吉田純也さんも素敵なお声かけで加わり、更に会場の皆さんも手拍子で一体となって、これぞジャズコンサート！という雰囲気の中で、楽しいひとときは過ぎていきました。
(松井博之 S52 政経)

品川稲門会の長谷山純さんと松井博之さんは、実行委員会として、準備段階から当日までいろいろな支援活動にご苦労されました。お疲れさまでした。



箱根駅伝応援会

毎年恒例の新年行事としてすっかり定着した観のある東京箱根間往復大学駅伝競争(箱根駅伝)の応援会が、今年も1月3日の復路、北品川第一京浜沿いにある品川女子学院で行われました。

学院内の会場カフェテリアには朝から、品川稲門会会員やご家族、友人等が続々と集まって、65人にもなりました。

塚田会長のご挨拶が始まり、一同乾杯。用意された飲み物と料理のほかに差し入れの酒類もあり、カフェテリア中央にある大スクリーンTVに映し出される各大学精鋭の雄姿に拍手を送りながら、和やかに歓談しました。お元気な人十数名は勝山宏則さんの先導で、近くの品川神社に高い階段を駆け上って必勝祈願をするなどして駅伝ランナーが近づくのを待ちました。

木伏源太さんが早稲田大学応援歌、校歌などを皆に指導をしてすっかり盛り上がったところに走者が近くなったとの連絡が入り、皆一斉に小旗をもって沿道に出て、声を限りの声援を送りました。今年の早稲田の10区走者はスポーツ科学2年生の清水敬太君でしたが、我々の前をあっという間に駆け抜けていきました。

すぐにまた皆は会場にもどり、スクリーン前でゴールまでの応援です。一時、後方の順天堂大学との差が詰まり、はらはらさせられましたが何とか3位をキープしてゴール。一同大喜びで拍手がおこり、校歌を大声で唱って、散会となりました。

早稲田OBとして本当に燃える一日でした。来年もまた皆様とご一緒に参加したいと思っています。

入院中だった漆邦臣副会長(品川女子学院理事長)も元気そうなお姿で参加されました。しかし、誠に残念ながら1か月後の2月2日、お亡くなりになったとの悲報をお聞きすることになりました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。
(中澤郁子 S33 教育)



新会員ごあいさつ

古きを研究して新しい道理を…

平成7年卒の岸田洋明です。10年ほど前に世田谷区から引っ越してきました。世田谷の前は名古屋で20代のほとんどを過ごしました。生まれは板橋区、9才から大学卒業まで清瀬市にいました。品川区は、私にとって2番目に長く住んでいる土地になります。

振り返ると、長く住んだ土地よりも、短かった土地の思い出のほうが鮮烈な印象に残っています。26才のとき半年間ほど赴任したデュッセルドルフのビールや、2才のとき数か月間ほど預けられた岡山県の親の実家で楽しかったという記憶が、私の本格ビール好きや瀬戸内海の物産がどうも気になってしまう性癖に繋がっています。

大学在学中はサークルとバイトの日々でしたが、それが幸いしたのか、大学という土地を離れてしばらくしてから、母校のことが気になりだしました。ラグビー、駅伝の応援なんて現役時代は無関心だったのに、今はOBの一人として盛り上げられるのが楽しく、伝統のある大学、スポーツの強い大学へ行ってよかったと素直に感じます。ただ、かつて10代だった頃の自分が今の私を見たら、きっと複雑な気分でしょう。

団塊ジュニアで過熱した受験戦争世代の私は、その反動で少々ひねくれ、かつ反骨心も加わって、アンチ学歴志向になりました。偏差値第一主義反対！と家庭内でロックな高校生でしたが、一方、反骨の精神を尊ぶ早稲田になら入学してもいい、と言って親と和解したことを思い出します。それと、愛読していたSF作家故栗本薫さんが早稲田出身だったという理由で、志望校を決めました。

品川区のまちづくりに関わったことがきっかけとなり、稲門会とご縁ができるようになりました。仕事は、主にきもの・和文化分野の事業開発ですが、古い物事を研究して、新しい道理を得られるような仕組み作りを目指しています。

稲門会の諸先輩方におかれましては、結婚生活を長続きさせる秘訣を含め（4月に再婚しました……）、どうぞ公私ともにご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。（岸田洋明 H7文）



第3回 若手校友の集い

2016年9月17日(土)午後6時から、ワインハウス・ピクニッククラブ大崎ニューシティ店で、若手校友の集いを開催しました。大崎駅徒歩1分と近く、若者受けの会場での開催がよかったのか、現役学生のほかに品川区外の方や若手に？の付く方を含んで42名の参加があり、大盛況の懇親パーティーとなりました。

初対面の方が多かったので、参加者全員の自己紹介を行いました。いろいろな情報披露のな

かでさまざまな新しいご縁が生まれ、今後この集いの発展が期待されます。

早稲田大学校歌を高らかに歌った後散会としましたが、多くの参加者が二次会で盛り上がりました。

